

社会科学習指導案

- 1 日 時 平成31年1月22日(火) 第4校時
- 2 学 年 [REDACTED]
- 3 場 所 [REDACTED]
- 4 単元名 東アジア世界との関わりと社会の変動
- 5 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会(歴史的分野)における(3)「中世の日本」の事項イ「農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。」の内容を受けて設定した。国内外の混乱に巻き込まれる中で結束して身を守り、交流を取引に繋げて発展させていく強かさに気づき、文化の担い手としても成長して行く姿を通して現在の日本文化との共通点を考えていく。平安時代との比較から新たに生まれた文化の特徴をとらえ、代表的な事例をあげて特色を説明できる力を養う。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、教員の発問に答えようとする姿勢を持ち積極的な発言を行うことができる。しかし、根拠を持たないひらめきや目立つ言動も含まれるため思考が深まらない場合が多い。振り返りにおいても授業参加の度合いが高い反面、理解・定着に及んでいない記述が見られる場合がある。特定の単語や事象を整理して分類することは得意でも、大枠を捉えず流れを把握できていないためか聞き方を変える、2つの事象の因果関係を問う場合には発言を控える傾向が見られた。概ね女子の発言が少なく、挙手を重視すると特定の生徒に集中することも課題である。

(3) 指導観

課題の設定では、元寇によって鎌倉幕府の滅亡が早まるのかを主題に進めていく。防衛戦のため恩賞が払えず御恩と奉公の関係が崩れ、徳政令によって生活難に追い込まれていく過程から、その後の動向をイメージすることを目的とする。

情報の収集では、国内外に大別して、まずは南北朝の動乱と室町時代の概要を鎌倉時代と比較することで特色を集めていく。更に東アジアの情勢では中国・朝鮮半島の変化と琉球・アイヌに触れて、対外的な接点が多く作られたことを押さえていく。また、**整理・分析**では、東アジア地域との交流や混乱への対策として団結した民衆の様子から大きく歴史が変化する時代に気付ける作業につなげていきたい。

まとめ・創造・表現では、応仁の乱と戦国時代をあわせて「下剋上」をキーワードに繋がりを中心人物や組織の変化を追いかけ、**振り返り**では、武士の時代がどのように始まり統一への流れができていくのか説明する文章を考えさせたい。

6 単元の目標

- 鎌倉・室町幕府と東アジアの接点に関心を持ち、その影響を追求する学習に主体的に取り組むことができる。【社会的事象への関心・意欲・態度】

- 民衆の団結が求められる要因について平安・鎌倉時代との比較の視点を持って考察することができる。【社会的な思考・判断】
- 地図により鎌倉と京都の立地を把握し、拠点の違いが文化に影響を与えたことを理解できる。図・写真の特色をもとに文化の傾向を説明できる。【資料活用の技能】
- 元寇や日明貿易など東アジアとの接点が国内の動向に影響を与え、文化の担い手が一般民衆にまで拡大することが理解できる。【社会的な事象についての知識・理解】

7 単元の評価規準

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての 知識・理解
①元と明で対応に差があることに関心を持ち、背景の違いに目を向けることができる。	①惣や分国法の成立から幕府や朝廷権力の衰退を考察することができる。	①地図や写真資料を用いて書院造りに至る文化の融合を説明できる。	①東アジアとの貿易によって絹織物や綿織物が普及したことを説明できる。

8 本単元において育成したい資質・能力

本校で育成したい資質・能力は、①知識・情報 ②主体性 ③課題発見・解決力 ④チャレンジ精神 ⑤自らへの自信の5つである。そのうち、本単元で重点的に指導したい資質・能力は次の2つである。

育成したい資質・能力	本単元の学習を通して目指す姿
主体性	比較する自分の視点を持ち、根拠を持って指摘できる。
自らへの自信	気づきを共有して理解を深めようとするすることができる。

9 単元の学習指導計画（全5時間）

時	学習内容	評価				
		関	思	技	知	(●) 評価規準 (評価方法) (★) 資質・能力の評価 (評価方法)
1	課題の設定 見通し ○モンゴルの襲来と日本 「鎌倉幕府はモンゴルに負けて滅亡したのだろうか？ (何が影響したのか考えよう)」	◎	○			・幕府の衰退理由を探して意欲的に参加している (行動観察) ・自らの予想と根拠をノートに書いて説明している (ノート) ★気づきを共有して思考を深めている (行動観察)
2	情報収集 ○南北朝の動乱と室町時代 ・2つの朝廷ができた理由 ・室町幕府の強さ・弱さを知る			○	◎	・鎌倉と室町の特徴を書き出している (ノート) ・鎌倉から室町への流れをペアで説明できる (行動観察) ★幕府を比較する視点を持っている (ノート)

3	情報収集 ○東アジアとの交流 ・それぞれの要求とは ・琉球とアイヌ	◎	○	・地図上の位置を確認してチェックしている（行動観察） ・4つの国・地域が与えた影響を分類している。（ノート）	
4	整理・分析 ○産業の発達と民衆の生活… 本時 ・惣の形成 ・商品作物の流通		◎	○	・惣の形成理由をまとめて説明できる（ノート） ・商品作物と馬借を用いて流通の変化を説明できる（行動観察） ★気づきを共有して思考を深めている（行動観察）
5	まとめ・想像・表現 【協働】 ○応仁の乱と戦国時代 ・後継者をめぐる争い ・領地を治める工夫	○	○		・班ごとのロールプレイが協力的に行われている。（行動観察） ・分国法の目的について具体例を挙げて説明できる（ノート）
6	振り返り ○室町文化とその広がり ・金閣と銀閣 ・和風建築の基本になったのはなぜ？		◎	○	・北山文化と東山文化を比較して説明できる（ノート） ・自らの体験をもとに和風建築のことを話している。（行動観察）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>★「深い学び」を実現した生徒の具体例</p> <p>元寇や勘合貿易の影響で中世の日本の政治は大きく変化した。その混乱の中で生き残るために協力した惣や座・戦国大名が次の時代を作っていくことが分かった。文化の中心地だった京都が焼け野原になったことで平安時代から続く文化が日本各地へ広まり、現代の日本文化の原型になったり、各地の特産品になったりしていることが分かって遠い室町時代に親近感が湧いた。</p> </div>				

10 本時の学習

(1) 本時の目標

民衆の団結と流通の変革を説明できる

(2) 本時の評価規準

○社会的な思考・判断・表現

民衆が団結した理由や維持のための工夫を説明しようとしている。

○社会的事象についての知識・理解

惣や馬借の存在から民衆の生活と経済がどのように変化したのか理解している。

(3) 準備物

ワークシート, タイマー, プロジェクター, パソコン (教師用)

(4) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (○) 教科の指導事項 (★) 資質・能力 (評価方法)
導入	1 守護大名はどんな人？「村でもめ事があつたら誰を頼れば良いだろう？」	◇守護大名と守護を比較させる (既習事項) ◆力づく⇒武士⇒統治者は？と段階を踏む	
展開	2 本時の目標		
	民衆の団結と流通の変革を説明できる		
	3 村掟と土一揆 「団結したら何ができるだろう？」	◇自治に必要な例を挙げさせる ◇誰も傷つかない抗議方法を考えさせる 全員で逃げる＝逃散へ	○惣の形成理由をまとめて説明できる (ノート)
4 つぶし合いを防ぐ 「〇〇商店が生き残るには？」 発表⇒座の解説	◇ライバル会社に勝つための方法をグループで考えさせる。(GW) ◆犯罪や利益が減る方法は難しいと伝える	★気づきを共有して思考を深めている (行動観察)	
5 专业化と流通 「集中するには何が必要になる？」 発表⇒見世棚・馬借を解説。明銭に触れる	◇繋ぐ人が必要⇒生産者と販売者の間をつなぐ職業を考えさせる。(GW) ◆現代に例えると？を提示する ◆人任せでは物々交換できないことを提示する <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">★めざす生徒の発言 ・代わりの人に運んで貰おう ・お金と交換にして運びやすくしよう</div>	○商品作物と馬借を用いて流通の変化を説明できる (行動観察)	
まとめ	6 学習のまとめ	◇教科書の読み合わせ, チェックを行う ◆机間巡視にあわせて漢字を指導 ノートチェック	
	7 振り返り	振り返りシートを書く	○振り返りシート
<p>★めざす生徒の姿 政治の混乱で権力者を頼れなくなった民衆は惣ごとに自治・自衛を行うようになった。二毛作や商品作物が増えて馬借や見世棚も登場し, 明銭を使う経済が畿内地域を中心に広がっていった。思い年貢には土一揆で対抗し, 商人が協力する座も作られるようになると民衆の力は強くなっていった。</p>			

